

4階東病棟この1年

4階東病棟看護科長 石崎 邦代

平成20年4月より4階東病棟看護科長となった。4階東病棟は消化器内科のみの単科病棟であるが、年平均病床利用率95%・在院日数18.3日・毎月の入院患者数は平均89名で内34名が臨時入院であった。そのため、入院患者のベッド確保（空床利用・ベッド異動）を行うことに業務の時間が費やされることが多く、また、日常生活で支援を必要とする患者さんの退院調整がなれないこともあり、病棟管理・病棟運営の難しさを実感した。

平成20年度4階東病棟目標について

1. 患者さん・ご家族にあった看護を専門職としての知識や技術をもって提供する

①入院当初より退院を視野にいった看護ケアを行う。

セルフケア能力の低下・認知症の進行や介護力不足・在宅介護が困難などの理由で、受け入れていただける病院や施設の調整が必要な患者さんが多くなってきている。受け持ち看護師として入院時から退院を視野に入れた関わりを行うため、他職種も含めた情報交換を行い、退院調整をする必要がある。スタッフ全員が関わっていくように、意識の向上を目指したい。

②患者さん個々にあった日常生活の指導を行う。

患者さんの年齢や社会背景・家族背景などの情報から退院後も支障なく日常生活が送られるよう、入院中に指導や教育を行う必要がある。糖尿病教育指導のパンフレットの見直しは毎年行っており、患者さんの生活パターンに合わせた指導について試行中である。また、患者さんやご家族と共有した看護計画の実践を進めていきたい。

③病棟から外来へ継続できる看護を行う。

外来で化学療法を継続する場合は、看護サマリーや化学療法連絡票で情報を申し送り、看護が継続されるようになってきている。また、入院される患者さんについて、外来看護師から受診時の状況が紙面で申し送られる事もあり、以前より情報交換がおこなわれている。今後は、外来・病棟看護師によるカンファレンスを行い継続看護の充実を図る必要がある。

2. 医療機能評価受審に向けての病棟整備を行う

①医療機能評価票から求められる書類の整備や環境整備を行う。

看護基準・病棟内のマニュアルの作成と見直しを今後も継続して行う。

3. クリニカルパスの評価と新パスの作成

①安全な医療看護の提供のために検査等のパスを新たに作成する。

現在あるパスの見直しを行ったが、新パスの作成には至らなかった。化学療法に関する学びを深めパスの作成を目指したい。

4. 専門職としての質の向上を目指す

①研修会に参加して自己研鑽に努める。

看護係長は看護管理Ⅱ、スタッフは臨地実習指導・エビデンスに基づく緩和ケアを受講し学びを深める事ができた。また、自己学習を深めるために、自費で札幌へ研修参加をしているスタッフも多くいた。しかし、17時以降の院内研修会には臨時入院やスタッフ数の不足から参加することが少なかった。病棟委員による勉強会の開催を推進し、専門知識を深めたい。

②患者さんやご家族、他の人に対して、不愉快な思いをさせない。

言葉遣い、態度等で患者さんやご家族に不快な思いを与えることもあり、スタッフへ接遇の重要性や思いやりを持って接する大切さを伝えた。時には、患者さんやご家族から感謝のお手紙をいただき、逆に励まされることもあった。

終わりに

高齢者や認知症でセルフケア能力が低下している方の看護ケアが多くなり、マンパワーが必要であることを実感している。また、家庭での介護力不足による在宅が困難な事情も多くなり、退院調整に時間がかかるケースが増えている。地方センター病院として、急患を受け入れる体制が必要なため、ベッド確保が必須である。日頃より、空床利用にご協力いただいている病棟の看護科長・スタッフの皆さまには、深く感謝致します。